

こんにちは、ブルーチーズドリーマーの伊勢昇平です。

ブルーチーズドリーマーって何？って思われたかもしれません。これは世界に一つだけの僕の肩書きです。チーズづくりを始めた時はチーズ職人と言われていたんですが、ただ黙々とチーズを作れば良いというイメージがどうしても自分に合わなくて、この肩書を自分で作りました。

僕の仕事はブルーチーズで夢を叶えることです。その夢は二つあります。

1つ目の夢は世界一のチーズを作ることです。

旭川市の郊外にある江丹別という小さな村で家族4人で小さな牧場を営んでまして、そこで江丹別の青いチーズというブルーチーズを作っています。

正直、小さい頃はこの故郷が大嫌いでした。田舎で何にもなくて、親の仕事は臭い汚い金ない、周りにもバカにされる。早くこの場所を捨てて世界に出て大きな人間になりたいと思っていました。

高校2年生だった僕は世界に出るために英語を勉強しようと、ある人のところで英会話を勉強することにしました。

その人は「常にワールドワイドで生きろ」という熱い先生だったんですけど、その先生がレッスンの前にふと、「お前の親父は牛乳絞ってんだろ。じゃあその牛乳で世界一のチーズを作ったらそれだって立派なワールドワイドだぞ」と言ったんです。

それを聞いた瞬間に「それ、やります」と答えていました。自分の天命を知らされたという感覚が電撃のように背筋を走ったんです。その日から僕のチーズ人生が始まりました。

江丹別でしか出来ない最高のチーズを作り続けることが世界一のチーズにつながっていくという想いで2011年からこの仕事をはじめたわけですけど、上手く作れずに一度仕事を中断してフランスに1年修行に行ったりもしました。

僕が始めた当初は日本でブルーチーズを作る技術を持った人がいなかったんですよね。しっかりしたものを作れるようになるまで苦労しました。

でも今ではJALとANA国際線ファーストクラスの機内食に採用されるようになりました。これは国産食材で史上初です。小さい牧場なので限られた生産量ですが、良いものを作りできるだけ高く売るというのをモットーにしています。

最初に夢は二つあると言いましたが、もう1つの夢、それは江丹別を世界一面白い村にすることです。

自分が夢を見つけ、それに向かって挑む楽しさを教えてくれたこの場所をたくさんの人の夢が叶う場所にすることができないだろうか。そうして集まった仲間と共に切磋琢磨し、さらに前に進むことができたらどんなに幸せだろうか。そんなことを考えるようになったんです。